



だれの子とも  
ころさせない

### 罰則付き感染症・特措法改正案は 緊急事態条項加憲への布石!!

今国会で審議されている感染症法と特措法改正案は野党の申入れで「刑事罰」が前科の付かない「行政罰」で決着されるようです。自公政権の幹部の夜遊びが週刊誌ですら抜きが無ければ刑事罰のまま自民・公明・維新の会の多数決で改正案は早々に成立したはずで、刑事罰を行政罰にしたからと言って、これらの法案を手放して喜んではおられません。自民党は感染症・特措法で国民が緊急時に国家権力に従うのが国民のためだよとの意識を植え付けようとしているのは明らかです。

この法案が国家第一でなく国民第一であること、即ち、政権が国会の事前承認、速やかな報告、公平性・透明性・健康優先を担保しているかをチェックする必要があります。



#### 1. 感染症法改正案の問題点

- ① 入院措置拒否：50万円以下の過料
  - ◆ 入院できる環境を整えることが先。  
(入院したら親や子の介護。面倒を見る体制を作る必要がある)
  - ◆ 職場や学校やお店に迷惑を掛けるので沈黙。
- ② 積極的疫学調査拒否：30万円以下の過料
  - ◆ 罰金が掛かるのなら、保健所や病院の診察受けない方がいいとなって逆効果
  - ◆ 職場や学校やお店に迷惑を掛けるので沈黙。

①や②の場合でも、保健所は拒否等に対する証拠書類の収集・作成に時間がとられ、本来業務がおろそかになります。差別偏見を助長する恐れがあります。

#### 2. 特措法改正案の問題点

- ① 緊急事態宣言：30万円以下の過料
  - ◆ 安心して休業できる補償が担保されれば誰も違反しない。
- ② 蔓延防止等重点措置：20万円以下の過料
  - ◆ 国会への報告無し。
  - ◆ 発動要件や命令内容が不明確。

「自粛警察」がまた息を吹き返し、差別偏見が蔓延してくる。過去のハンセン病等の感染症に対する国家の対策の反省がないのは明らかである。



ワクチンの接種も大事ですが、罰則より補償がこのパンデミックを克服する道であることであると声を上げる必要があります。

2月9日 15:00~16:00 は「9の日」**高の原駅前アクション**です。  
皆様のご参加をお待ちしています。

#### 憲法カフェ

日時：2021年3月27日(土) 13:30  
場所：右京ふれあい会館(予定)  
テーマ：日米地位協定 続編  
講師：池田順作(生駒九条の会)

### 2021年1月22日 核兵器禁止条約が発効しました

平群では、1・22 核兵器禁止条約発効日に歓迎のスタンディング宣伝を行いました。雨の中25名の参加で、車からのリアクションもありました。



## 緊急事態宣言」の発出に思う

登美ヶ丘茶論（13）より

菅政権は、コロナ拡大に対処すべく緊急事態宣言を11都府県に拡大した。多くの人々の気持ちが、急騰し続ける感染拡大に、事ここに至っては今や止める手段はこれ以外にない、ともかく早く止めてくれ、となるのかもしれない。メディアの世論調査も、緊急事態宣言が時間的に遅いか否か、空間的に広げるべきか否か、というだけで、宣言そのものの

是非を問う、あるいは科学的に有効な感染防止策は何かを考える性格のものでは

ない。メディア自身も緊急事態宣言を前提としている。

一体、緊急宣言は応急措置であって根本的解決策ではない。私は宣言合唱に強い違和感を覚える。 昨年初めそもそもの感染源であったコロナ・カジノ賭博船で、ある医師が強く訴えたように、基本は感染の全体像を掴み感染者と非感染者を分離することである。いま感染者の4割は無症状者だという。ならば社会検査を拡大・強化して感染無症状者を分離して感染の拡大を抑え込むことこそ緊急措置ではないのか！保健所や病床の縮減、公立病院のリストラや売り飛ばしの経済優先・人間切り捨て政治を強行して来たのは、自公政権や大阪維新を典型とする新自由主義勢力ではないか！

あまつさえ、コロナを自民改憲案「緊急事態条項」明記への誘導策と見て、コロナは「改憲の大きな実験台」と言っている自民元衆院議長伊吹文明氏のナチス亡霊的妄言を忘れてはならない。（km）

2月20日 10:00 より生協会議室にて **世話人会** です。世話人でなくても、参加していただきご意見・活動等についてお聞かせ下さい。

奈良県文化会館前広場に集まった市民は折鶴を散りばめ、「核兵器禁止条約は核兵器を持つことも使うこともゆるさない」と書かれた横断幕の周りに集まりました。被爆された方々や核廃絶を求める世界中の人たちとお祝いと同時に実効されるための行動を起こすことを決意しました。

奈良の空から世界の空へとそれぞれが持ち寄った鐘の音を響かせ、世界平和の実現を誓い合いました。菅首相に調印を求める寄せ書きを送りました。



生駒で35名が熱気あふれるスタンディング  
宣伝

「核兵器のない世界を」国際署名生駒市センターは、お祝いのスタンディング宣伝を行いました。急な呼びかけにもかかわらず、35名もの人が集まり喜びを分かち合いました。大きな横断幕と「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間」パネル写真、手製の特大原爆パネ



ルなどを掲げて祝いました。「スタンディングはできないけどみなさんで食べて」と沢山のキャンディーの差し入れもありました。特に訴えませんでした。署名とカンパも頂きました。生駒市センターの構成団体の新婦人、平和委員会、革新懇、母親連絡会から祝意のリレートークも行い、10年以上毎月行ってきた生駒でのヒバクシャ署名活動に新たなページを加えました。最後はみんなで「原爆許すまじ」など平和の歌3曲をうたい、「おめでとう！！」と声をあげました。この日を「核兵器の終わりの始まりの日」として非核の政府をめざす決意を新たにしました。